

標 題

宍道湖西岸地区大区画ほ場整備に係る営農支援活動報告 その4
～小豆の規模拡大のネックとなる除草対策について2つの試験を実施～

(ダイジェスト)

大区画ほ場整備後における高収益作物として、小豆の産地化を目指す宍道湖西岸地区農村整備推進協議会（農家数626戸、経営面積456ha）では、小豆の規模拡大のネックとなる除草対策について、機械メーカー等の協力を得ながら除草機及び除草剤畦間処理による防除実証を実施しました。

1 除草機：8月2日

(1) 実証内容：乗用管理機＋深耕カッター＋玉輪＋土ピタ＋レーキ

(2) 確認事項：除草機の防除効果と小豆への影響（枯死、黄化等）

(3) 結果概要：

- ・処理率50%程度（イヌビユ等）。3週間後には次の雑草（タデ）が発生。
- ・小豆の黄化や枯死は10%程度。密播のため補償作用があるので収量的ダメージは少ない。

2 除草剤畦間処理：8月17日

(1) 実証内容：ハイクリブーム＋万能散布バー。中後期除草剤の畦間処理。

(2) 確認事項：畦間処理の防除効果と小豆への影響（枯死、黄化等）

(3) 結果概要：

- ・2葉期程度の小さいイヌビユ等に対しては高い効果があったが、カヤツリグサや大きな雑草に対する効果は低い結果となった。
- ・散布時に小豆の葉や茎が除草剤で濡れたが、小豆への3週間後の影響は少ない。

3 考察と今後の取り組みについて

(1) 除草機については、初期・初中期・後期の除草剤散布との組み合わせが除草効果をより高めると思われる。継続検討が必要と考える。

(2) 除草剤畦間処理について、終期除草剤では小豆の枯死や黄化が懸念されるので、散布ノズルにカバーを付けるか、小豆の株をかき分けながら散布するような改良が必要と考える。

(3) 今後は、播種直後：初期除草剤（一年生雑草）、出芽揃い期：初中期除草剤（一年生広葉雑草）、播種後15日：除草機、播種後30日：中期除草剤（一年生イネ科雑草）の体系防除を検討する。

当日は、作業の様子を生産者に公開したことから、多数の立会者があり関心の高さを感じました。出雲普及部では、出雲産小豆の良質安定多収のため、産学官連携による栽培技術と販路拡大の支援について、積極的に行っていきたいと考えています。



除草機作業の様子(8月2日、出雲市)



除草剤畦間処理作業の様子(8月17日、〃)